

氏名： 友川 幸

実施国：ラオス

協力活動

活動名称 ラオスの未来の教師のための健康・環境教育ワークショップの開催

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

特になし

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

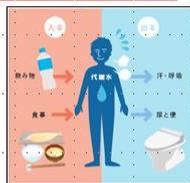
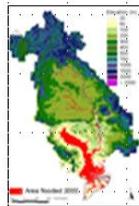
■良かった点

- ・ラオスに派遣されている青年海外協力隊と連携をして、ラオスにおいて将来、健康、環境教育を担う人材となるラオスの教員養成校の学生達に、健康、環境教育に関する参加型の授業（ワークショップ）を紹介し、健康・環境教育の重要性、その具体的な手法が伝授できた。
- ・現地でのワークショップの企画・開催を通して、現地 JOCV、現地の教育関係者、学術関係者の間の有機的な協力関係が構築された。
- ・現地に派遣されている環境教育隊員のカウンターパート、教育学部の中の健康、環境教育に関連した教科の教員などが、ワークショップに参加したことで、ラオスで健康・環境教育を担っていく人材に健康・環境教育に関する興味・関心を持ってもらうことができた。
- ・活動の報告会を日本で行うことで、日本の教員養成系の大学の学生や、学校教育現場の教員に、開発途上国での健康、環境教育の実践を紹介できた。

■反省点

- ・今回の活動を通して構築したラオスの青年海外協力隊および現地事務所との連携関係をどのように継続させていくか。また、地方の教員養成学校へどのように活動を展開させていくかが課題となった。

模擬授業の様子
(lecture: water cycle in our world)



Lecture by Prof. Watanabe from Shinshu Univ.

水の大切さと人間生活を理解するための教材として、特に内容の論理性について高い評価を受けた。ラオスの状況に合わせて、さらなる改良を行うことが課題となった。



協力隊によるワークショップの様子

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？
または実施事業に対する一般の反響は？

・ 現地の学生、協力隊、日本の教員や学生と共同で、お互いの国で実践可能な環境配慮行動を議論した時

理由：お互いの国の文化や経済などの違いを実感することができたため。

・ ワークショップに関する評価を現地の教員と議論した時

理由：学生の興味や関心を引き出すためには、教員の働きかけが必要という共通理解を得られたため。

・ 日本の大学生、学校教員を対象に活動報告を実施した際に、同じような機会が得られれば、参加してみたいという学生や教員が多数おり、開発途上国で健康教育や環境教育を行うことへの高い関心と興味を得られた。

(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）

日本（信州大学教育学部）で活動報告会を実施し、将来教員を目指す学生に、現地での活動の様子を報告した。また、日本の小学校の教員に対して、活動について話をした。今後は、日本の学校教育現場で子どもたちに活動について話をする機会を持っていきたい。